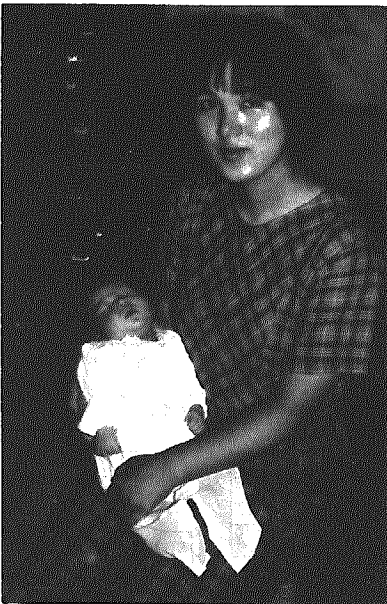


# いい顔、ありがとう

●この広報紙にあなたが写っていましたら、総務課企画係(巻の四一―一内線二〇二)へご連絡ください。写真をさしあげます。



## おめでとう人口一万人目

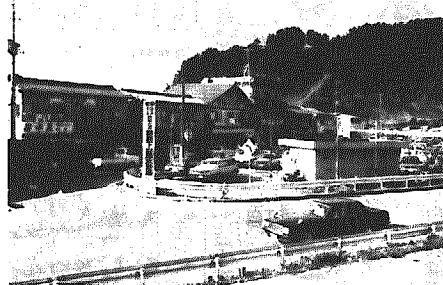
七月生まれの伊藤健二君(和納三区)

私たちの村、岩室村も合併して新村が誕生以来二十四年。岩室・和納の二村が合併したのは、昭和三十五年三月、当時一万二千五百一人だった人口も四十年代から一万人を割り、ゆるやかな過疎化の傾向を示し、五十年の国勢調査では八千九百五十五人と最低になりました。この後、和納三田地内に新潟県住宅供給公社の団地分譲(二百四十区画)が始まり、五十五年国勢調査では九千三百六十人と九千人台が増加。五十七年には他町村からの転入率が県内一になり、昨年十月、九千九百人台に突入。先月二日、待望の一万人を突破しました。

(出生)した人に何かお祝いを、と計画していましたが、この幸運の主は七月に生まれたばかりの男の子で「伊藤健二」君(和納三区)。「伊藤健二君 昭和五十九年七月二十日生まれ。あなたの誕生は村民待望であった人口一万人目でありましたことを証し、心より祝福いたします」と伊藤さん宅を訪れた村長が人口一万人目の賞詞を読みあげ、記念のアルバムと村の木「月桂樹」の苗をプレゼントしました。健二君は伊藤勇さんと幸江さん夫婦の二番目の子どもで、一万人目ということでお兄ちゃん勇志君をはじめ家族のみならず、人もうれしそうです。



▲明日の農業を担う——県内の農業後継者が一同に集まり、農業を通して得た技術や体験を発表する「第24回新潟県農村青少年技術交換大会」が7月26日・27日の両日、本村の崖松キャンプ場で開かれました。県内各地から約170人の青年が集まり、農業クラブ活動などで得た体験や技術、仲間づくりのすばらしさなどについて発表しました。



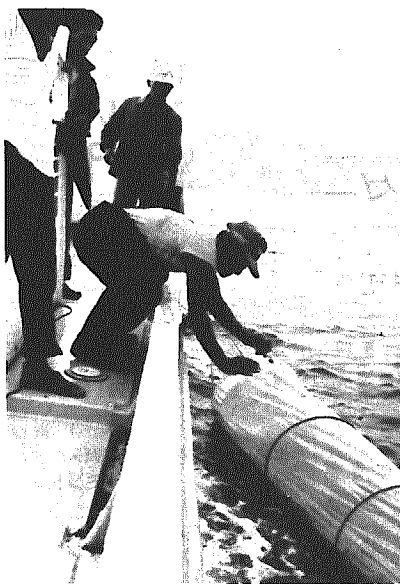
▲超過密——先月12日(日)の間瀬・下山海水浴場では親子連れを中心に15,000人の人出でにぎわった。例年、お盆直前の日曜日は客が少なくなるが、こじは好天続きのせいか、客の減り方は少なく、700台収容の駐車場も満杯。入り切れない車は、サーキット場入口まで並べられ、おかげで浜茶屋も大盛況。この日はこの夏最高を記録した7月29日の人出の三分の二くらいというものの浜茶屋は「これで一息も二息もつかせてもらった」とホクホク顔。

「親子で楽しい夏の夜を」と、先月三日夜、間瀬保育園父母の会主催の「キャンプファイヤー」が海岸でにぎやかに行われました。今年初めて行われたこの試み——親子のきずなを強めようと企画されたもので、キャンプファイヤーを開き、保母さんの協力で親子ダンスにカラオケ、なぞなど、子どもたちも親たちも初体験づくめで、持ちきれないほどの夏の夜の思い出をつくっていました。

持ちきれないほどの夏の夜の思い出...



▲夏の夜の祭典——盆踊りのファイナレを飾る「仮装盆踊り大会」が先月17日、和納八幡神社境内で行われ、集まった見物人の笑いを誘った。毎年行われているこの仮装盆踊り大会——今年は世相を反映し、外国米輸入反対やオリンピックを題材にしたものも登場。審査の結果、団体は「カンボジア踊り」、個人はオリンピック体操のエース「具志堅幸司」がそれぞれ第1位に選ばれました。



▲車エビの「旅立ち」——先月十日、間瀬海岸では漁業資源の確保をめざして、水産試験場のふ化場で、二ヶ月に育った稚エビ十数万匹が、漁協の人たちの手で日本海に放流されました。三年後、十五ヶ月前後に育ち「間瀬産車エビ」として商品化(漁獲)されます。



## ストップ、交通事故

盆踊りに前に交通安全映画会

増え続ける交通事故を少しでも減らしたい、と地区ぐるみで交通安全に取り組んでいる交通安全協会和納支部(竹内勝衛支部長)では、毎年映画会を行って啓もう活動を進めています。今年も一昨年に続き、盆踊りにぎわう和納八幡神社境内で先月十六日、「失われた人生」「交通戦争のかけで」の二本を上映。集まった七十人余りの人は熱心に見入っていました。「夏のこの時期はつい気持ちも開放的になることから...事故を防ぐ自覚をもつてくれれば」と、同支部長は映画会のねらいを話していました。